

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◆◆◆ No.0520 ◆◆◆

19/02/06

【 2月相場、期待される2ヵ月連続の「大変動」 】

先週の当レターでもレポートしたように、今年の1月相場はポンド/円を筆頭にドル/円もかなりの大相場だった。「2019年相場は幸先の良いスタートを切れた」と言えそうだが、続く足もとの2月相場は果たしてどうだろうか？

市場へのいち参加者という立場でいえば、先月に続く大変動を2月も是非とも続けて欲しいが、恒例となっている過去の経験則を参考にすると、「その可能性は必ずしも否定出来ない」ようだ。足もとの動意はやや鈍いものの、月内のどこかで再び動意付く展開が期待されている。

◎為替や株式など、金融面での「重要事象」多発も気掛かり

2月相場の特徴についてレポートするうえで、まずは勝敗・星取表をみておく。1990年以降昨年まで過去29年は13勝16敗となっており、若干ドル安・円高が有利ではあるものの、それほど大きく偏っている感は見られない。

ただ、方向性には特徴のなかった2月相場だが、別の特徴を調べてみると、「動くときには大きく動くが動かない年はまったく動かない」という両極端になり易い傾向が強うかがえることがわかった。

たとえば、2009年の2月は月間変動9.76円で年間を通してもっとも動いた1ヵ月となっていたほか、2012年の2月も年間でもっとも変動した月。また、2016年は順位的に年間3位に留まったものの、月間の変動幅は10.45円とかなり大きな動きを記録しているうえ、昨2018年の2月は月間変動幅4.93円となり、年間2位の変動を記録していた。

これからすると、近年は「大きく動く年」がやや優勢ということにもなりそうだが、比較的最近である2014年は逆に「動かない年」。月間を通した変動はわずかに2.1円で年間10位の小変動、また2017年も月間変動幅は3.36円、同9位に終わるなど、年間を通して動きの鈍い1ヵ月だった。まったく動かない2月相場にも一応要注意だ。

どちらの道をたどるのは「神のみぞ知る」ところではあるものの、昨年ように「1月荒れ模様、続く2月も大相場」となることを個人的には是非とも期待している。

なお、2月相場が、「動くときには大きく動くが動かない年はまったく動かない」という両極端の価格変動になり易い傾向は、ドル/円だけに限ったことでなく、ユーロ/円やポンド/円など円絡みのほかの通貨ペア全般にみられる特徴だ。つまり、1月同様に円絡みの通貨ペアが一般的にアクティブな動意を示す可能性もある反面、反動なのか相場全体が静かな大人しい変動にとどまる可能性もある。

一方、2月の出来事を調べてみると、過去の2月は重要事象それも為替や金融に関することが多いことがわかった。

一例を挙げると、「日本が新円へ切り替え(1946年)」、「ドル/円が変動相場制へ移行(1973年)」、「ドル安に歯止めをかけるルーブル合意(1987年)」、「G7声明で『ドル安是正終了』を宣言(1997年)」などのほか、比較的最近には「G7が『為替は市場で決定されるべき』との緊急共同声明を発表(2013年)」が起こっている。また、株式に関しても、「日経平均株価がブラックマンデー以来の暴落、前日比1569.10円安を記録(1990年)」、「中国発で世界同時株安発生(2007年)」、「NYダウが終値で1175ドル安と史上最大の下げ幅記録(2018年)」など、かなり興味深い出来事が相次いでいた。もちろん、こうしたことは毎年起こるものではないことは承知しているが、リスク要因として頭の片隅に留めておいて損はない気もしないではない。(了)

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

